情報活用能力育成研究指定校 ２年目の研究のスタート
～ふるさと三宅島の魅力を、自分たちの言葉で～

５ 年生の総合的な学習の時間が始まりました。今年度のテーマは「三宅の魅力、未来の三宅」。前半の小単元では、「三宅島観光大使プロジェクト」として、子供たちが自らの言葉で三宅島の魅力を発信することに挑戦しています。

それは、４ 月 26 日（土）学校公開の日でした。教室をのぞくと、「星がきれい！」「しずか」「火山のことを伝えたい」など、子供たちの声が模造紙いっぱいの付箋にあふれています。それらを仲間と分類しながら、「何を」「誰に」「どうやって」伝えるかを考える姿に、ふるさとへの誇りが芽生えているのを感じました。

本校は東京都教育委員会の**情報活用能力育成研究指定校**となり、今年度は研究２年目を迎えています。この取り組みの中でも、Canva やオクリンクなどの ICT ツールを活用しながら、情報の収集・整理・発信に取り組んでいます。重要なのは、「ICT を使う」ことそのものではなく、「伝えたい思いをどう表すか」という目的意識をもって活用しているという点です。

４ 月 30 日（水）には、この学習をテーマとした校内研究会の研究授業が５ 年生で行われました。

三宅島の魅力（すてき）を伝えるために、「どんなことをこれからしていく必要があるのか？」という、担任からの問に対して、子供たちは「誰に伝えるのか決める」「何を伝えるのかを決める」「三宅島のすてきなところをさらに詳しく調べる」など、するべきことや順序などを話し合っています。子供たちの表情には、「自分が誰かに伝えたい」という誇らしさがにじんでいます。児童が自ら立てた問いをもとに、どのような情報を集め、どのように発信していくかを話し合う場面には、三宅島の未来を自分たちの手でつくっていこうという小さな意志の芽吹きが感じられました。

さらに、授業後には東京学芸大学の森本康彦教授を講師にお迎えし、校内研究会を実施しました。60 分間という短い時間でしたが、私たちは迫力のあるご指導に終始圧倒されました。森本先生は、ICT 教育・情報活用能力の育成・教育の個別最適化などの分野で日本を代表する研究者であり、文部科学省の「情報活用能力調査」や「教育 DX」分野にも深く関わってこられました。現在は東京学芸大学 ICT・情報基盤センターの教授として、全国の教育現場と研究をつなぐ立場で活躍されています。

森本先生からは、「ICT は目的達成のための道具。子供の“もっと”を引き出す設計を、教師がどう仕組むかが大切」というメッセージをいただきました。本校の研究においても、子供の思いや問いから始まる「意味のある活用」を大切にしており、先生のご助言はまさに背中を押してくれるものでした。

この「観光大使プロジェクト」は、やがて「未来の三宅プロジェクト」へとつながっていきます。三宅島の魅力を伝えたいという思いが、やがて「守りたい」「よりよくしたい」という願いへと育ち、子どもたちは自分たちなりの行動を考え、表現していくのです。

子供たちが、「三宅島で育ってよかった」と心から思えるように。

三宅小学校の子供たちのために、これからも職員みんなで切磋琢磨しながら **研究していこう!!**